

R7年9月放送分 (防災特別番組)

R7.8.26 収録

【パーソナリティー】

ラジオモンスターでは、毎年9月の防災月間に合わせて、各界からゲストをお迎えし、「防災特別番組」を放送しています。

本日は、東北防衛局の池松局長をゲストとしてお迎えし、お送りいたします。池松局長よろしく申し上げます。

【局長】

東北防衛局の池松です。

昨年に引き続きよろしく申し上げます。

【パーソナリティー】

はじめに、東北防衛局について簡単にご紹介をお願いいたします。

【局長】

はい、東北防衛局は、東北6県を管轄区域とする、地域の防衛行政の拠点です。防衛に関する連絡調整、防衛施設の建設工事、周辺対策事業をはじめ、地元の皆様と自衛隊・在日米軍の間の架け橋となるべく、様々な業務を実施しています。

こちらのラジオモンスターにおいては、「日本の防衛Q&A」や「自衛隊百科」といった番組に出演させていただいています。

【パーソナリティー】

「日本の防衛Q&A」や「自衛隊百科」では、今年度は東北防衛局が掲げた3つの重点、①防衛に関する重要な政策 ②東北防衛局や東北地方にも関係のある施策 ③東北防衛局を知ってもらう、または関心を持ってもらう施策 について放送しておりますので、リスナーの皆様には、こちらにも是非お聞きいただきたいと思っております。

本日は、防災特別番組として「災害発生時の対応について」お聞きしていきます。

【局長】

はい、わかりました。いきなりですが、今さんは、「自衛隊にどのような役割を期待しますか。」と聞かれたら、何と答えますか。

【パーソナリティー】

そうですね、山形県では度々大雨による甚大な被害があり災害派遣のニュースを見てきました。昨年7月にも酒田市や戸沢村などにおいて、大雨による災害派遣のニュースを見ましたので、災害派遣を一番期待しています。

【局長】

多くの方が、国の防衛や災害派遣を思い浮かべると思います。

内閣府が令和4年11月に実施した世論調査では、「自衛隊にどのような役割を期待するか」との質問に、災害派遣を挙げた人が最も多く、88%以上いました。次に「国の安全の確保」が約78%となっていました。

【パーソナリティー】

災害派遣の活動の種類は様々あると思いますが、昨年度は主にどのようなものがありましたか？

【局長】

先日、令和6年度における自衛隊の災害派遣について報道発表されました。それによりますと、令和6年度の主な活動としては、①風水害対応にかかる災害派遣、②林野火災の消火にかかる災害派遣、③鳥インフルエンザ対応にかかる災害派遣、④急患輸送がありました。

【パーソナリティー】

災害派遣と聞くと、地震や豪雨といった自然災害の場面での人命救助や給水支援をイメージしていましたが、いろいろな場面で活動しているのですね。

昨年度の主な活動に風水害対応にかかる災害派遣がありました、どのような流れで行われるのでしょうか。

【局長】

大雨といった風水害に際し、警察・消防だけで対応ができない場合

には、通常、都道府県知事からの派遣要請を受けて、自衛隊の部隊が派遣されます。

派遣された部隊が何を行うのか、人の救助に当たるのか、あるいは給水作業を行うのか、といった支援の内容については、知事からの要請に基づいて行うことが基本です。ただ、地方公共団体も混乱していることもあるため、要請を待っているだけではなく、積極的に支援ニーズを見つけ出し、自衛隊側から提案する形で支援を行うこともあります。

【パーソナリティー】

都道府県知事から派遣要請がされる状況というのは、緊急を要する場面を想像するのですが、自衛隊としては、そのような事態にどのように備えているのですか。

【局長】

全国各地の自衛隊の駐屯地や基地では、災害発生時に迅速に対応できるように、初動対処部隊を待機させています。この部隊を「ファスト・フォース」と呼んでいます。これは、陸、海、空自衛隊共通の取組で、例えば陸上自衛隊では、全国で約 3,900 名、車両約 1,100 両、航空機約 40 機を、初動対処部隊として、24 時間 365 日、待機させています。

【パーソナリティー】

ファスト・フォース部隊が全国で待機しているのですね。

【局長】

はい、今後、南海トラフ地震や首都直下地震など、国難ともいえる大地震の発生が想定されています。こうしたことに、しっかり備えていく必要があると考えています。

【パーソナリティー】

それを聞くと、いつどこで災害が起きるか分かりませんが、普段私たちが生活するうえでものすごく安心感につながりますね！

ところで、池松局長は、内閣官房で政府全体の危機管理をコントロールする事態室で参事官を、防衛省では自衛隊の運用をコントロール

する統合幕僚監部で首席参事官をされ、北朝鮮のミサイル発射や国内での大規模地震なども担当し、日本の安全保障や国民の安全・安心に関するお仕事をされていたことを、昨年お聞きしましたが、そちらでは、災害発生時の対応はどのようなことをされたのですか。

【局長】

一つ印象に残っているのは、クルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号でのコロナ感染への対応ですね。

【パーソナリティー】

2020年に横浜港で起こった事案ですね。

【局長】

そうです。対応の初期段階は本当に手探りでした。特に、クルーズ船でも船長さんが相当の権限と責任を持っていたこと、船長さんが外国の方だったこともあり調整が必ずしも簡単ではなかったこと、が印象に残っています。

【パーソナリティー】

日本で初めての新型コロナによる船舶での集団感染対応。まるで映画のワンシーンでも見ているようでした。

ダイヤモンド・プリンセス号の関係で他に印象に残っていることはありますか。

【局長】

深夜にクルーズ船の代理店に調整に行った帰りに、カラオケボックスから出てくる先輩達にばったり会ったことはよく覚えています。誤解のないように言っておきますが、その先輩達はクルーズ船の件には関わっていない方達なので、カラオケに行っても何の問題もないのですが、少し悲しくなったのを覚えています。

【パーソナリティー】

連日深夜までの激務を想像いたします。大変お疲れ様でした。

最後に東北防衛局と防災対策の関係について聞かせていただけますか。

【局長】

災害派遣、即ち、災害が起こった際の対応では、主役は現場に派遣される部隊であり、東北防衛局の役割は限定的ですが、被害を受けた自衛隊施設の復旧支援は東北防衛局の仕事です。また、防衛施設周辺の土地を、ガレキの集積など、災害対策に活用してもらう手続も所管しています。一例を挙げますと令和4年に、三沢市の大規模養鶏場で鳥インフルエンザが発生した際、殺傷した鶏の埋却地として活用しています。このほか、東日本大震災の際には、遺族対応や米軍活動支援のための職員派遣も行いました。

【パーソナリティー】

災害が起こる前の準備に関しては、東北防衛局の役割は何かありますか。

【局長】

東北防衛局では、防衛施設の設置や運用に伴う影響を緩和するための事業に、補助金や交付金を活用してもらっています。この枠組みで、災害発生時の避難場所となる公園など、防災に役立つ施設を整備することも可能です。

【パーソナリティー】

防衛省・自衛隊では様々な活動を行っているのですね。

自衛隊の方々が、国民の安全・安心のため、様々な任務に従事されていることがよくわかりました。

本日は、東北防衛局の池松局長をゲストに迎え、防災関連番組をお送りしました。

池松局長、ありがとうございました。

【局長】

こちらこそ、ありがとうございました。